

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

## 研修会記録

第 7 号

令和4年 1月 11日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

12月 7日 (水)

提案 佐々木 すみれ先生 (西富岡小)

【会 場】

横浜市立西富岡小学校

司会 内藤 和貴先生 (谷本小)

記録 田口 由希子先生 (日吉南小)

### 1 提案内容 単元名

単元名 「 地域の伝統を守る 相模人形芝居～下中座～」

### 2 提案者より

視点① 主体的な学びを実現するために、予想と見通しを生かした単元づくり

授業中では、子どもたちが積極的に手を挙げ発言する姿が多く見られた。児童が自ら資料を選択することができるように、ロイロノートを活用し、資料箱からいつでも必要な情報を見られるようにした。児童がもう少しその資料を活用して発言できるとなお良かった。他にも、学習計画をふり返るために学びの足跡シートを活用したり、長い時間を体感できる足跡年表を作成したりし児童が思考しやすい手立てを行った。

視点② 社会的事象の意味等に迫るために、協働的な学びを大切にした授業づくり

児童が材を自分事として捉えるために、体験活動や出前授業を開催し、本物の声をきくことができたことでより切実感をもって考えていた。予想を板書する際には、表にまとめみんなが分かりやすい工夫を行った。4月には社会が苦手な児童が多くいたが、成長を感じられる授業となった。

### 2 協議会

子どもが身近に感じる手立てをたくさん行えたことがよい。材が自分事に落ちて話ができていた。そのために、佐々木先生が多くの手立てを考えていたことが良かった。子どもが、「伝統」をどう捉えているのかは気になった。子どもが熱量をもって材に向き合っていたからこそ、その先が楽しみである。先生と子どもの日々の積み重ねから深まった授業になったと考える。

<講師の先生より>

南部学校教育事務所 主任指導主事 赤羽博明先生

視点① 単元構想がよい。活用する資料が選定されていたのがよい。社会科の見方・考え方を働かせる手立てができていたと思う。また、学級づくりがうまくいっている。今後、多くの人（横浜市全体）で材を活用できるようにしていくとよい。

視点② 子どもの予想を表に表していたことがよい。それを子どもが活用していたところがさらによい。また、教師が子どもと資料を選定していたところがよかった。今回はなかったが、社会科の授業の中で、資料を教師が出した後に、子どもの発言が少なくなることはよくないから授業する際には注意していきたい。また、小さい問題を解決する心地よさを子どもたちが感じられるとよい。

菊名小学校 野間義晴 校長先生

- 子どもの熱量がすごい。授業で学級づくりができています。子どもの思考の流れを大切に、教師の想いに寄せすぎないことが大切。そのために、見通しをもった単元づくり、授業づくりが大事。
- 本気で学ぶ姿勢ができています。自分の考えに自信をもつことと傾聴の姿勢がよい。教師対児童だけでなく、児童同士の話し合いが必要。みんないるから分かるという集団のよさを価値づけることが大切である。書くだけでなく、書いた内容を共有していくことも大切にする。
- 子どもたちの反応がワンパターンではないところがよい。
- 伝統文化を4年生に切実感もってもらうことは困難である。子どもとともに材に丁寧に寄り添っていきたい。

<b>【提案日時】</b> 11月 2日(水)	<b>提案</b> 遠藤 恭兵 先生(二ツ橋小)
<b>【会場】</b> 横浜市立二ツ橋小学校	<b>司会</b> 藤巻 裕祐 先生(大曾根小) <b>記録</b> 坂本 実 先生(川和東小)
<p>1 提案内容 単元名  単元名 「自然災害に備えるまちづくり  ～予測不能な地震に備えて、自分たちにできること～」</p> <p>2 提案者より  &lt;自評&gt;  本時で取り上げた教材「ビッグレスキューかながわ」とは、9都県市で行われている防災訓練で、神奈川県は県庁を中心に運営されている。およそ3600万人の市民を有する首都圏では、大規模災害によって大きな混乱を招くおそれがあり、こうした総合防災訓練を実施している。</p> <p>本単元の学習において、区役所や市役所に対する児童の理解が及ばず、県の取組から調べることを始めた。また、県→市→区の順に調べ学習を進め、それぞれの自治体がどのような取組をしているかを整理した。なお、市と区の取組は近い内容が多く含まれていることから、セットにして同時に調べた。</p> <p>横浜市総合防災訓練に関しては、担任が教える形となった。訓練という視点で調べ学習を進め、やがてビッグレスキューかながわへと波及し、本気の学習問題に繋がっていった。</p> <p>① 時間配分に苦しさを感じた  横浜市総合防災訓練に関する学習が定着していなかったことに由来して、児童の発言が停滞した。一方で、ねらいの本筋からは左程ずれなかったと思われる。</p> <p>② 資料の有用性  平成30年の概要をもとに作成した本時資料を使用した。横浜市では共助を大切にしている訓練を実施しているので、ビッグレスキューかながわに参加しなくても安心できるという結論にもっていきたかったが、児童の声ではビッグレスキューかながわにも参加した方がよいとする意見も多く寄せられた。担任の指導性(あるいは操作性となってしまったか)と、「ビッグレスキューかながわ」という教材が適用可能といえるか検討したい。</p> <p>3 協議会  &lt;グループ協議&gt;  A班  ・子どもが主体的  ・45分プラスαの時間、考えたり発言したりする子どもたちの集中力および学ぶ姿勢がすてきだった。  ・教師の指導が多い→学習問題で比較する根拠の主題を明らかにしたい。</p>	

- 「参加しなくて大丈夫か」の問いでは、「やるにこしたことはない」となってしまう。  
→ディベートや討論のような学習形態にしてもよい。
- 横浜市総合防災訓練に主を置いて考えられるとよい。
- 学習問題に対して、根拠をもとに結論を出すのが難しい。
- 横浜市が参加しない理由を、市や区の職員に聞いてみる。
- 本日の資料だけでは難しい。

#### B班

- 本時で提示した資料は、どちらも大規模な防災訓練で、横浜市でも県と同等な訓練を行っているので、参加しなくてもよいと気付けるものだった。
- 4年社会における県の学習としての災害学習とは。自分事にするのが難しい。
- 「どうして参加しないのか」という学習問題にする。
- 地震というと広範囲の災害になる。そのとき、区がどのように動いているのか。
- 共助→公助（組織）の流れ
- 連携とは…  
「ビッグレスキューかながわは色々な人が関わっている」≠「横浜市総合防災訓練」
- 子どもは参加した方がよいと考えているので、「なぜ参加しないのか」を問うとよい。

#### C班

- 学んだことを生かして発言していた。
- よく調べていた分内容が広い。
- 資料提示の意図を明らかにする。
- 既習事項で土台を揃えておく。
- 「ビッグレスキューかながわ」と「横浜市総合防災訓練」の具体を詳細に
- 横浜市と神奈川県のつながりを考える。
- 横浜市も大きな組織であり、それぞれの取組をまとめるとよい。
- 本時学習を通して自助へ
- 資料をもとに話し合う時間を設けたい。グループ、隣の人など。学習を深めるために。
- まとめの場面でもう一步踏み込んだ話し合いを。
- 資料の写真を大きく。

#### D班

- 新しい材を発見して教材化することができていた。
- 学習問題について「大丈夫かな」という問いは二択を迫り一方を切り捨ててしまう。
- 修正前の展開でもよい。
- 自助・共助・公助について、しっかりと理解しているからこそ、必要ない・大丈夫という意見が生まれる。
- 「防災」という視点での問い返しが必要。

・主語は「わたしは」ではなく「横浜市は」にこだわる。（子どもの立場の明確化）

E班

- ・位置づけ 県→横浜市→県 つながり
- ・横浜市を捉えてほしかったが、ビッグレスキューかながわが中心となっていた。
- ・子どもの視点では、疑問が疎らで何を視点に比べたらよいか曖昧で、根拠のない話合いとなっていた。
- ・具体的に話をするには、横浜市総合防災訓練の捉えをしっかりと行い、「どうして参加しなくても大丈夫なのか」を問う。横浜市総合防災訓練を中心に、ビッグレスキューかながわと比べられるように。
- ・ビッグレスキューかながわの規模が大きいことを表す具体的な情報を示したい。
- ・調べる内容を分ける。県の場合はビッグレスキューかながわ、市のときは総合防災訓練。  
→具体的事実から問いが生まれる。

<グループ協議 その他>

- ・資料は前時に、それをもとに話し合う。
- ・自助につなげる難しさ。
- ・学習問題は市のことで、資料は県のこと。本時展開の構成が難しい。
- ・児童間で、同じ問題意識（本気の学習問題）がもてていたか。腑に落ちていたか。
- ・4年生は県の学習だが、横浜市の内容を排除することは難しい。
- ・「なぜ～だろう」という問題を変えた理由…子どもの思考の流れに沿うようにした。

<講師の先生より>

教育委員会事務局総務部 教育政策推進課 主任指導主事 川上公美子 先生

- ・神奈川県危機管理防災課に、ビッグレスキューかながわについて問い合わせたところ、横浜市でも消防局は参加していることが分かった。また、ビッグレスキューかながわで津波対策がしたいという思いがあり、海に強いとされる横浜市や川崎市にも参加の声がかけられている。横浜市は水難救助に長けている。船も持っている。ヘリコプターを呼び出すこともできる。
- ・横浜市は、県の危機にも飛んでいき助けている。
- ・9都市の中に横浜市も入っている。
- ・県の取組と市の取組を比較して、「どのような解が得られるのか」と問われれば、疑問が残る。
- ・担任が、訓練規模の大きさにこだわっていた。
- ・教材研究は、[事実確認]と[人との出会い]が大切。そこから社会的事象に迫っていく。
- ・教材研究をすることで見えてくる、教材の魅力は多いが、その中から何を学ばせるのかを考えていきたい。
- ・本気の学習問題は、教師の指導性を発揮する場面。社会的事象に照らして学習を構築してほしい。

関東学院大学 准教授 西川健二 先生

- ・平成28年の中教審答申より、防災学習の内容を強化することが明記されている。それが学習指導要領にも反映されている。
- ・3年共助→4年共助自助→5年公助→6年公助へと発展していく。
- ・「学び方」のふり返し（調べ方・思考など）をさせていた。大切。積み重ねていきたい。

- 地域から県へと学びを広げていくことが、横浜らしい学び方。身近なところから迫っていく。
- 本時で「こんなに大規模な訓練なのに…大丈夫なのか」という問い。
- 二項対立では、子どもが結論を出すことにこだわってしまうことは△
- 指導性：団体ってなに？→後につながる確認  
学校でやれることは？
- 分析にはテーマが必要。
- 討論をしていると見せて、実は発言の連続に過ぎないものが多い中、本時では討論ができていた。  
→友達の考えにつなげて、自分が発言をする。
- 「どんな資料が欲しい」や「この資料はみんなの役に立つかな」など問い、資料を児童主体のものにしていく工夫が大切。子どもに問いかける必要がある。
- 共助の意味を子どもの言葉で掴んでもらいたい。
- 子どもが発言した意見や考えを、担任が「それを〇〇と言うよ」というように、概念化する必要。
- 今日学べたことは、「横浜の良さは」、「神奈川の良さは」、というふり回り方ができたこと。
- 指導性≠教え込みである。指導性とは、学びを方向づけアシストするものである。この学習のゴールがどこにあるのかを導いていくことにある。
- 学び方を考え工夫していった末の子どもの様子が知りたい。

文責 山口 暁風 (小田小学校)